

## 『持続可能な開発と地場産業』について

これからの時代は、使い捨て型の消費から脱却して、気に入った品物を代々伝えていくというライフ・スタイルを学び直すことが必要になっています。

食を中心とした「地産地消」の考え方は、製造業やサービス業などあらゆる産業にもあてはめることができます。地域の生産者と消費者が互いに手を取り合い、意見を交換して企画・実行していこうという考え方は、そもそも地場産業が形成された過程にあったのではないのでしょうか。気候風土、歴史的な背景、その地域ならではの特性や人材が育ててきた地場産業だからこそ、もう一度地元にこだわることで、新しい活路が見出せるものと考えます。

全国の漆器産地で主流となった合成漆器は、天然木特有の風合いがないだけでなく、原料は化石資源ゆえに限りがある上、漆器が本来有すべき、環境と調和するという重要な一面が失われてきました。プラスチック製品は、自然の中では分解されず、消却しても有毒ガスを発生するなど、廃棄する際の問題があり、また食器に使用した場合、樹脂によっては環境ホルモンが溶け出すといった健康面の問題も抱えています。

自然素材である『漆』は体に優しく、何度も塗り直して使うことにより、物を大切にし、さらに年期が入ることで、その価値が増します。そして、自然からの恵みは、私たちの感性を豊かにしてくれます。

資源の枯渇による破局を回避し、持続性の有る社会を実現するための漆器産業の可能性について考えてみました。

### ■提言・1 ロハスアイテムとして会津塗を再評価する(1)～(4)

### ■提言・2 箸の商品開発による会津塗の活性化(1)～(7)

LOHAS=Lifestyles of Health and Sustainability  
健康と環境、持続可能な社会生活を心がける生活スタイル